

長大、八九月開、小花莖頭簇簇、葩厚、而淡赤色、略似石蒜、紫苑之類、結子如桐實、而有稜、黃色、七八月采、葉晒乾、青變作赤、黃褐色、而厚爲上、深赤黑而厚者次之、淡赤黑者、淡赤黃者、又其次也、薄黃淡青而薄者爲下品、農家場圃多種之、以貨于四方、得利者不爲小種之、若種去年之田、則苗短葉微而薄、色淺味惡、故年年易田、鋤新地而種、則佳、略似種瓜法、

〔和漢三才圖會九十九〕煙草○中

按○中 煙草二月下種、五月移栽、摘去新芽、除蟲也、每旦不可怠、高三四尺、葉似商陸而長大、七八月采、葉覆葉筵、倉之、一宿取出、每一葉挾繩、如編成而晒乾、一夜露宿、復晒乾、則成黃赤色、攢皺收之、八九月莖頭出朶、極開、小白花帶赤色、略似紫苑花、結子、內有細子、黃褐色、有小蟲而食其子、故能不避蟲、則難得其種、

〔烟草百首〕薰橋○考るに、高三四尺とあれども、館大山田の類、豐作の時は五六尺に延、葉三十四五枚もつくなり、其地所にあひしものなるべし、國府安房葉龍王は、六月末に葉をとり、館は八月大山田沼田の類は、九月末に葉をかくなり、國府は葉を搔ず、根本より刈、莖のま、乾し、黃赤の色つきし時葉をとる、故葉の莖形よく、駒の爪のごとし、

〔烟草百首〕頭書 烟草和漢ともに禁むること、一體此草腴田にあらざれば味惡、これを種するに、若去年の畠に植る時は、則苗短く葉微にして、枯葉多く色淺味宜からず、年々畠を易肥を入、新地に種する時は、則葉の實入よく、力ありて薰よし、至て地所を荒す草故、五穀の妨をなす、殊に日用一匁の糧にもならざれば、天下に令して、是を種することを禁ず、本朝は田地異國に勝れて、米穀は悉多、新地年々増中にも、常州水戸、武州秩父山は、田面少く畑地多、山々谷々、新地を開きて、この草を種するに、地所にあひけるや、季夏のころは、莖長さ五六尺に延、葉三十枚餘を生ず、初冬に至て、東都へ出し販賣するに、五穀に利を倍し、其國潤へる故、自然と盛なりしも、愛度御代の驗なるべ